

平成 16 年度普及に移す技術

[普及に移す技術名] セルトレイ上でのエセフォン処理による夏秋小ギクの開花抑制

[要約] 摘心した夏秋小ギク苗に、セルトレイ上でエセフォン 200ppm 処理することで、処理時間、薬量は、慣行の圃場処理の約 1% に低減でき、圃場処理より強い開花抑制効果と同等以上の切り花品質が得られる。

[キーワード] 夏秋小ギク、セルトレイ、エセフォン、コスト低減

[担当] 福井農試・園芸バイテク部・野菜・花き研究グループ

[連絡先] 0776-54-5100、電子メール hiroshi_sakamoto@fklab.fukui.fukui.jp

[分類] 参考

[背景・ねらい]

夏小ギクの開花抑制にはエセフォン処理が用いられているが、現地では、定植、活着後の苗に圃場で散布するため、作業に労力を要する。そこで、処理時間と生産コストの低減を図るため、セルトレイ上でのエセフォン処理法を確立する。

[技術の内容・特徴]

1 . セルトレイ処理の方法は、セルトレイ 200 穴に挿し芽して 13 日経過した夏秋小ギクセル成型苗を、摘心後にエセフォン 200ppm 溶液を散布し、翌日定植する(図 1)。

2 . 慣行の圃場処理と比較して、セルトレイ処理は、処理時間と処理薬量が約 1 % に低減できる(図 2)。

3 . セルトレイ上でのエセフォン散布処理は、6 品種の夏秋小ギク品種で、慣行圃場処理より開花抑制効果が認められ、切り花品質も同等以上である(表 1)。

[技術の活用面・留意点]

1 . キク生産農家へ導入することで、エセフォンの使用量を大幅に削減できるとともに、散布作業の軽労化がはかれる。

2 . 表 1 に記載した以外の品種に適用する場合は、エセフォンの効果を事前に確認する。

3 . セル成型苗に用いる挿し穂は、スムーズな発根を促すため、挿し穂基部にインドール酪酸 0.5% の粉衣を行う。

4 . エセフォン溶液の散布量は、茎葉が十分濡れるセルトレイ当たり 0.3L 程度とする。

5 . 定植後の生育を促進するため、液肥を灌注する。

[具体的データ]

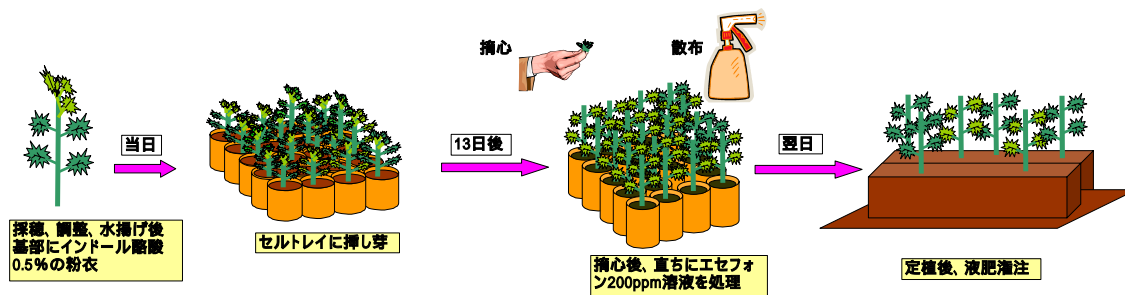


図1 セルトレイ処理の方法

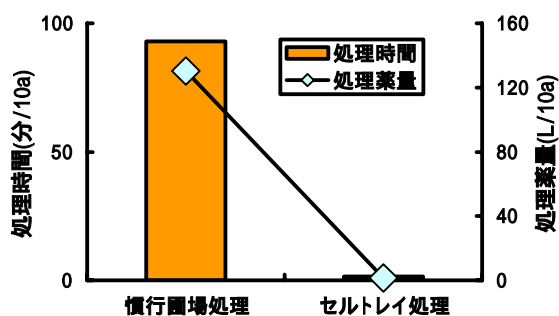


図2 セルトレイ処理と慣行圃場処理の10a当たりの処理時間、薬量の比較

表1 セルトレイ処理と慣行圃場処理の品種別効果

品種名	試験区名	開花日	切り花長 (cm)	葉数 (枚)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	花数
ほたる	無処理	7月7日	64	29	32	5.09	13
	慣行圃場処理	7月14日	76	38	39	5.47	14
	セルトレイ処理	7月18日	78	40	44	6.06	18
水星	無処理	7月15日	72	24	45	5.58	37
	慣行圃場処理	7月18日	71	26	40	4.85	19
	セルトレイ処理	7月19日	76	30	56	5.94	54
夕霧	無処理	7月21日	70	48	43	5.17	44
	慣行圃場処理	7月21日	69	52	36	4.74	47
	セルトレイ処理	7月29日	68	54	32	4.69	39
はじめ	無処理	7月21日	78	45	53	5.51	34
	慣行圃場処理	7月24日	79	49	43	5.20	26
	セルトレイ処理	7月28日	81	55	57	5.63	34
うたげ	無処理	7月24日	74	33	58	5.64	25
	慣行圃場処理	7月27日	78	41	72	6.21	29
	セルトレイ処理	7月28日	81	42	75	6.30	33
花絵	無処理	8月3日	117	58	70	6.42	39
	慣行圃場処理	8月5日	118	61	67	6.36	32
	セルトレイ処理	8月7日	119	62	76	6.41	41

挿し芽日: 2003年3月28日、定植日: 4月11日、摘心日: 慣行4月21日、セルトレイ処理4月10日、エセフオン処理日は摘心日と同日